

第99回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成25年7～9月期実績・平成25年10～12月期見通し)

1. 調査時点 平成25年9月2日～9月6日
2. 調査対象企業数 174社中回答 174社 回答率100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	39	39	100.0
建設業	〃	43	43	100.0
卸売業	従業員 100人以下	7	7	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		174	174	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・DI値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (TEL. 0146-22-4114、内線621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 174 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期（平成 25 年 7～9 月期）の業況判断 D I は $\Delta 28.2$ と、前期（平成 25 年 4～6 月期）比 13.1 ポイント上昇した。2 四半期続けての改善で、前年（ $\Delta 40.2$ ）比でも 12.0 ポイント上昇した。業種別には、建設 $\Delta 0.1$ （前期 $\Delta 30.2$ ）、卸売 $\Delta 28.6$ （ $\Delta 57.2$ ）、製造 $\Delta 30.8$ （同 $\Delta 33.4$ ）、小売業 $\Delta 40.7$ （同 $\Delta 57.3$ ）、サービス $\Delta 41.9$ （同 $\Delta 35.5$ ）となった。業種別の D I はサービス業を除く 4 業種で改善し、4～6 月期（前期）調査時点での 7～9 月期（今期）見通し（ $\Delta 26.4$ ）の水準に近く、平成 20 年秋のリーマンショック以降、最も高い値となった。建設業での回復が確認される一方、サービス業での回復の遅れが認められる結果となった。

売上額判断 D I $\Delta 7.5$ は、前期比 12.0 ポイント、収益判断 D I $\Delta 17.9$ は、同比 13.7 ポイントそれぞれ上昇した。

来期（平成 25 年 10～12 月期）の予想業況判断 D I は $\Delta 22.4$ と、今期実績比 5.8 ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造 5.1、建設 2.2、卸売 0.0、サービス $\Delta 35.5$ 、小売 $\Delta 57.4$ と来期を見通している。サービス、小売業で厳しい見通しの結果となった。

【業種別天気図】

時期 業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	25 年 1～3 月	25 年 4～6 月	25 年 7～9 月	25 年 10 月～12 月見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						

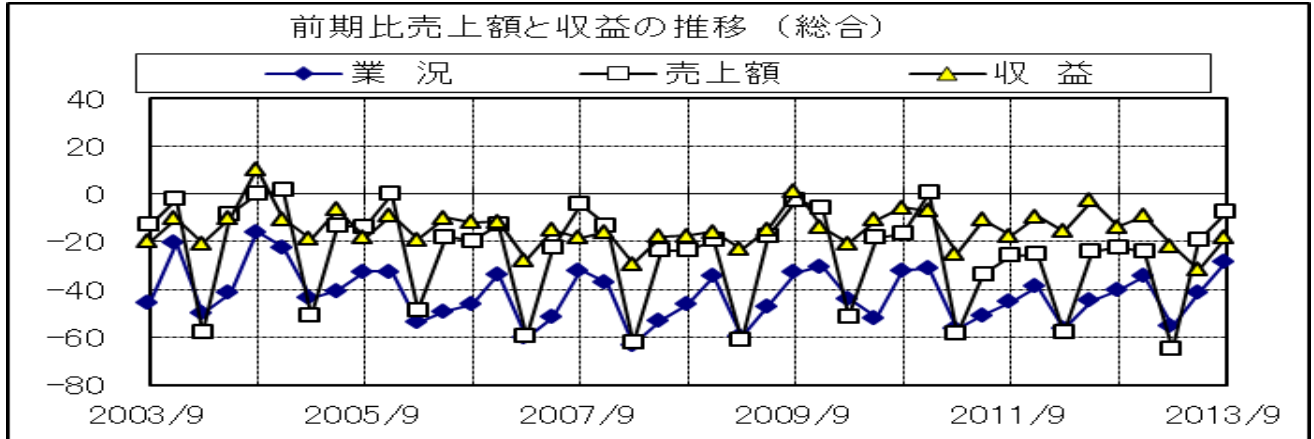
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-55.2	-41.3	-28.2	-22.4
売上額	-65.0	-19.5	-7.5	-8.0
収 益	-21.7	-31.6	-17.9	-12.1

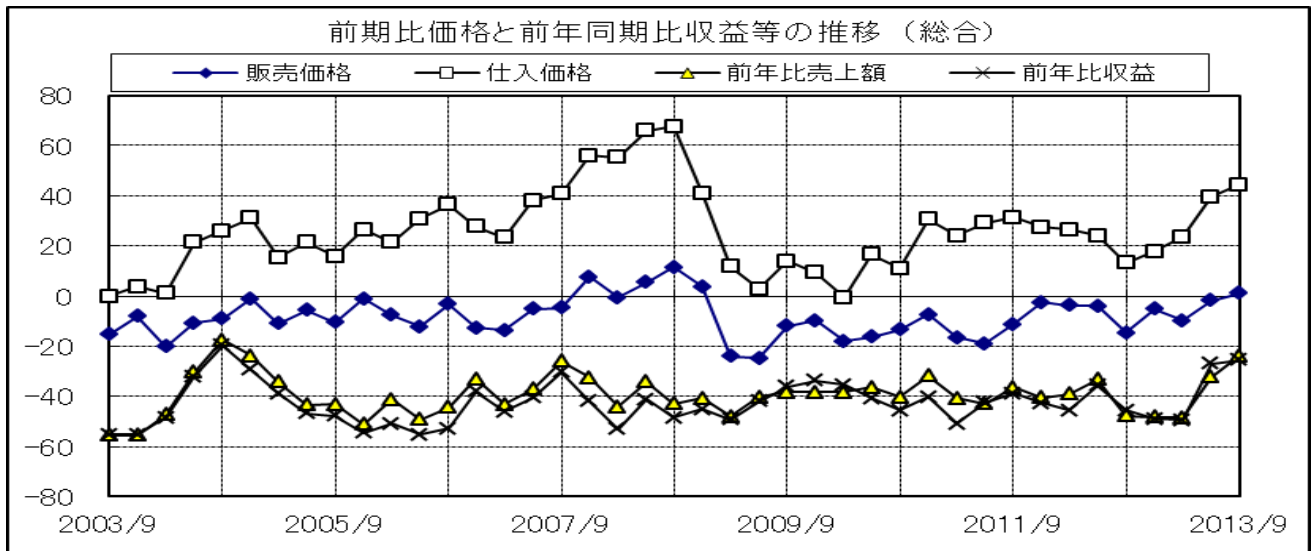
全業種総合の今期の業況判断DIは△28.2と、前期比13.1ポイント上昇した。地区別のDIは、えりも、様似、静内、広尾、三石、浦河の順に高い水準となった。業況判断DIは前年(△40.2)比でも12.0ポイント上昇した。売上額判断DI△7.5は前期比12.0ポイント、収益判断DI△17.9は同比13.7ポイントそれぞれ上昇した。



□ 価格面、前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
販売価格	-9.7	-1.8	1.1	7.5
仕入価格	23.5	39.6	44.3	39.1

販売価格判断DIは1.1と、前期比2.9ポイント上昇、価格上昇基調に転じた。仕入価格判断DIは44.3と、前期比4.7ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格は、製造、建設、卸売、小売業で上昇、サービス業で下降した。仕入価格は、建設、卸売、小売、製造業で上昇し、サービス業で下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-17.7	-16.6	-4.0	3.0
人手状況	-8.1	-7.9	-9.2	-19.6

残業時間判断DIは△4.0と、前期比12.6ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が減少した。人手過不足判断DIは△9.2と、前期比1.3ポイント減少し、人手不足感を強めた。

□ 設備投資の動き

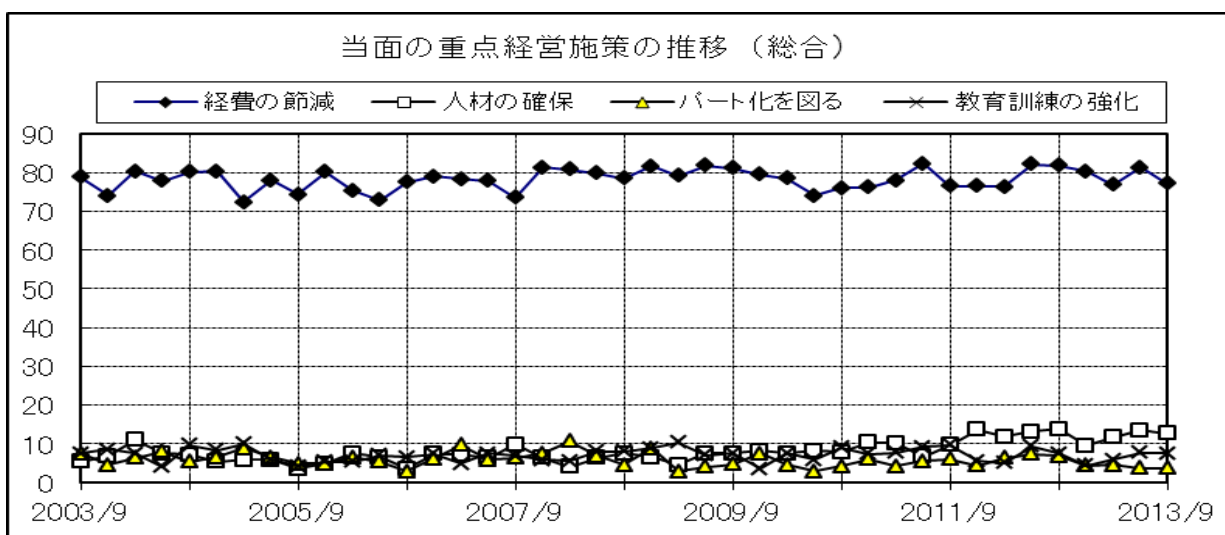
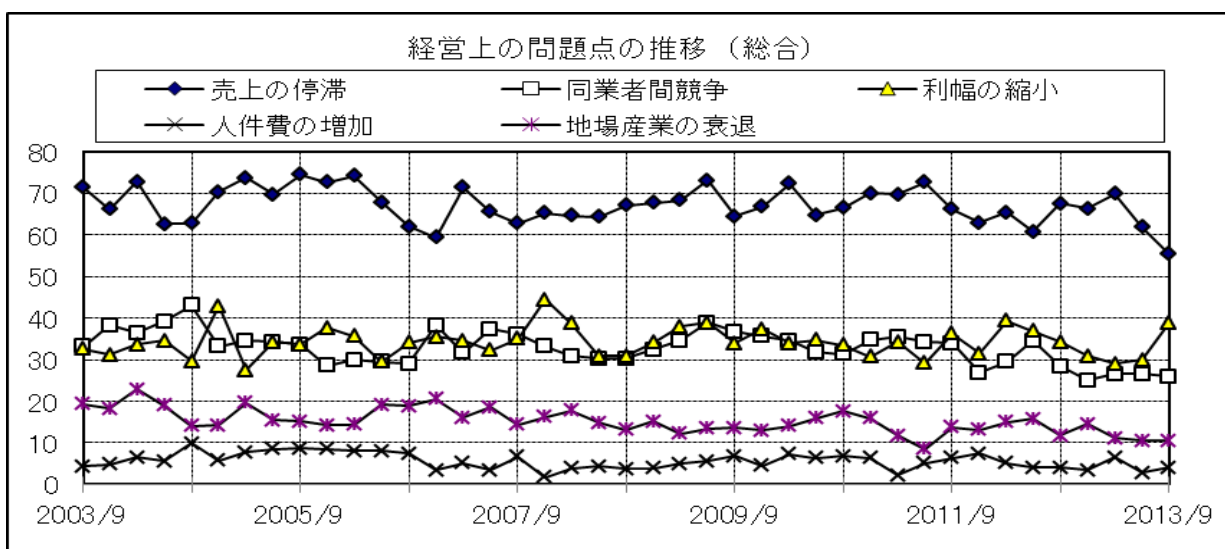
設備投資の充足感を示すD Iは△12.6と、前期△11.0から1.6ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は17.2%と、前期と変わらず、30社の実施となった。来期の設備投資は、26社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が55.3%で最も多く、次に「利幅の縮小」38.8%、「同業者間との競合」25.9%、「地場産業の衰退」10.6%、「天候の不順」9.4%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」が77.2%で突出している。次に「人材の確保」12.7%、「教育訓練強化」7.6%となっている。また、「特になし」とするものが9.2%あった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△22.4と、今期比5.8ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D Iは△8.0と、今期比0.5ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D Iは△12.1と、今期比5.8ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D Iは7.5と、今期比6.4ポイントの上昇を見通している。

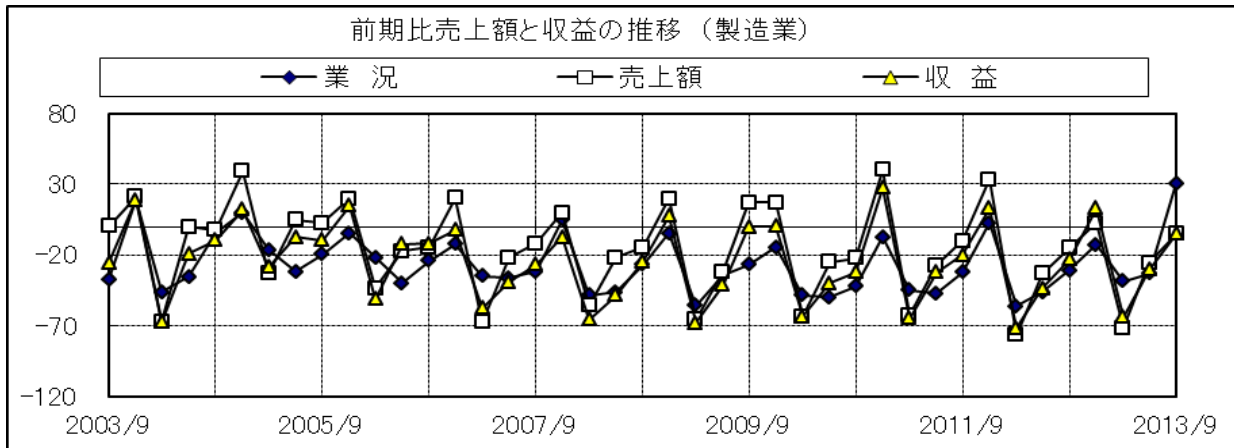
予想仕入価格判断D Iは39.1と、今期比5.2ポイント下降し価格上昇基調が弱まる見通しをしている。

製造業 39 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業 況	-38.5	-33.4	-30.8	5.1
売上額	-71.8	-25.6	-5.2	30.7
収 益	-64.1	-30.7	-5.1	23.1

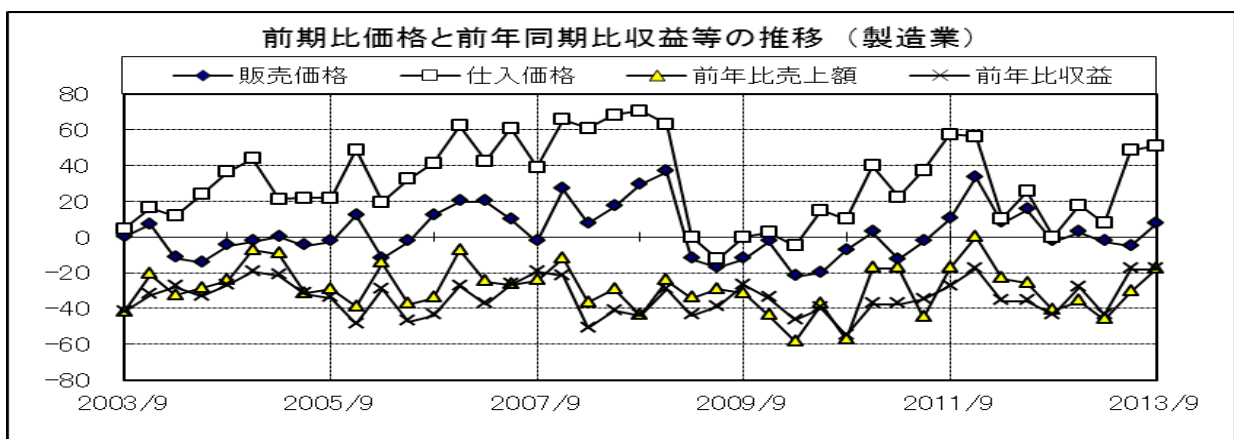
今期の業況判断DIは△30.8と、前期比2.6ポイント上昇した。地区別のDIは、浦河、えりもが同率で最も高く、次に広尾、様似、三石、静内と続いた。業況判断DIは、前年比では横ばいとなっている。売上額判断DIは△5.2と、前期比20.4ポイント、収益判断DIは△5.1と同比25.6ポイント、ともに上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	-2.6	-5.1	7.6	20.5
仕入価格	7.8	48.7	51.2	40.9

販売価格判断DIは7.6と、前期比12.7ポイントの上昇となり、価格低下基調から上昇基調に転じた。仕入価格判断DIは51.2と、前期比2.5ポイントの上昇となった。業種別にみると、食品は販売、仕入価格ともに上昇し、木材では販売は横ばい、仕入価格は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-12.8	-23.0	-7.7	12.9
人手状況	-7.7	-5.1	5.1	-25.6

残業時間判断DIは△7.7と、前期比15.3ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が減少した。人手過不足判断DIは5.1と、プラス値に転じ前期比10.2ポイント上昇し、人手過剰超となった。

□ 設備投資の動き

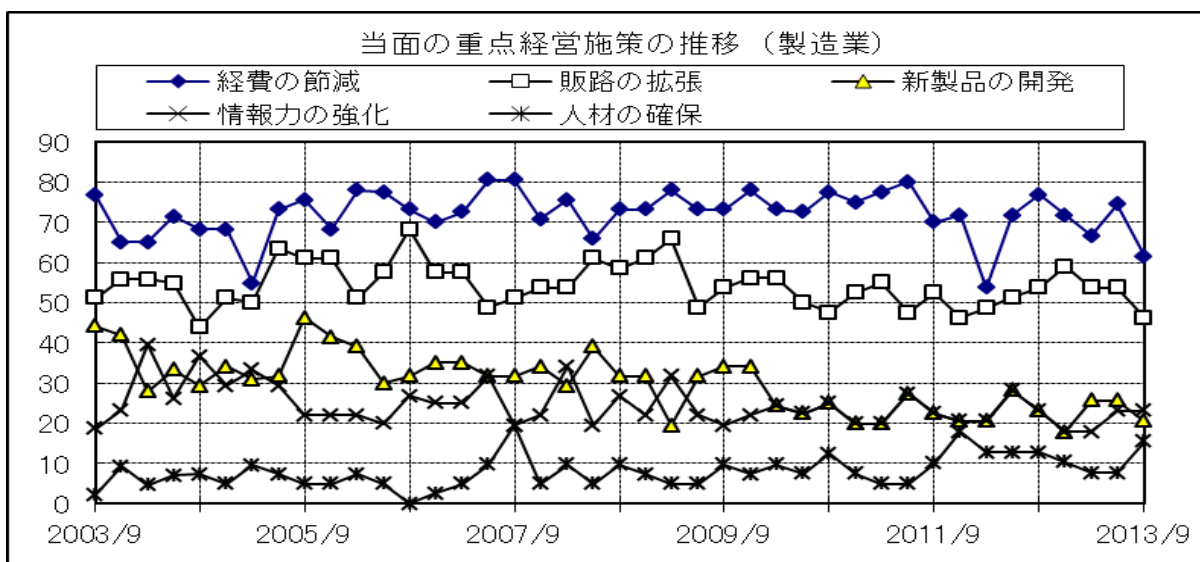
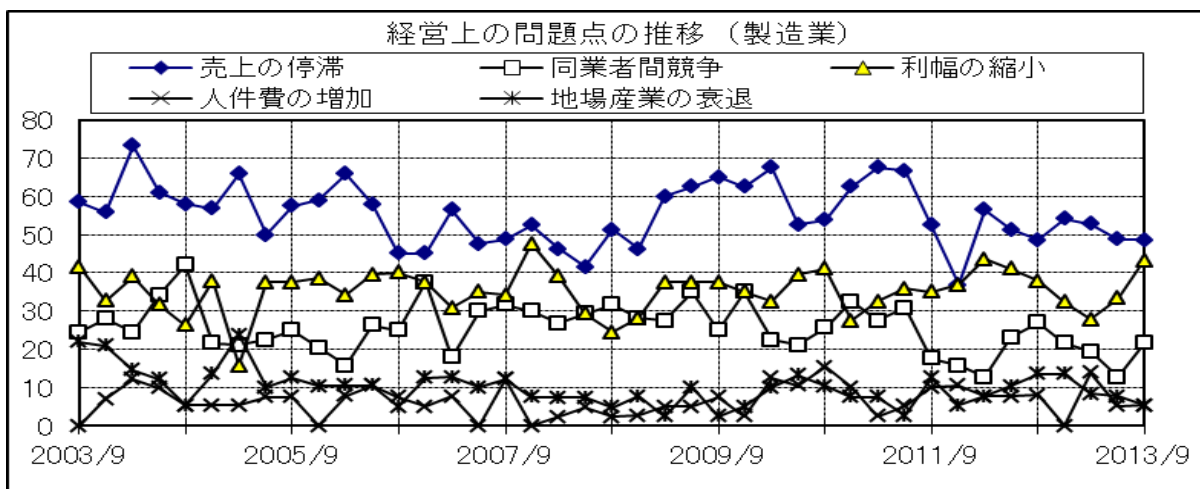
設備投資の充足感を示すD Iは△12.9 と、前期比 2.5 ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は15.4%と、前期比7.7ポイント下降。前期の9社に対し6社の実施となった。

来期の設備投資は、5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」をトップに挙げ54.1%、次いで「売上の停滞減少」48.6%、「利幅の縮小」43.2%、「同業者との競合」21.6%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ61.5%、次いで「販路の拡張」46.2%、「情報力を強化する」23.1%、「新製品を開発する」20.5%の順となっている。また、「特になし」とするものが10.3%あった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは5.1 と、今期比 35.9 ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D I 30.7は、今期比 35.9 ポイントの上昇を見通している。

予想収益D Iは23.1 と、今期比 28.2 ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D Iは20.5 と、今期比 28.1 ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D I 40.9は、今期比 10.3 ポイント下降し、価格上昇基調が弱まる見通しをしている。